

よき先達を失う

== 池田 和加男氏逝く ==

翠田 丕(みすた はじめ)

本年初め、数年間に渡って苦しんで来た身体の結果が出て、入院していました。まだ行動の自由がなく、病室から出られない時に、池田和加男さんの訃報に接しました。今日まで無知な私にキノコに限らず色々ご教示を頂いて来たのに、悲しいかな氣息奄々の中、お香典を送ることぐらいしか気が回りませんでした。

池田さんは千葉菌類談話会3百名近くの中にあって、優れた菌類に関するフィールド的学識経験の所有者であるとともに、植物に造詣の深い方でありました。また写真を能くし、多くの貴重な菌類その他の写真を撮られていました。大変器用な方で工作上の知識を持たれ、為にその恩恵に浴した人は私だけではなかったように思います。

八王子近くの日野にお住まいなのに、80歳ぐらいの齢になって毎々千葉までお出になるのは大変と思いますが、昔住んでおられたらしく、千葉の植物の集まりなどにも出ておられているようでした。埼玉のキノコの会の方々とも親しいお付き合いがありました。また時にはTVに頼まれて現地を案内したり解説したりということもあったようです。池田さんの撮られたキノコの写真が掲載されている図鑑の類も幾つかあります。しかし大勢の人を前にして大声で講釈をするというようなことは一度もなかったよう



中央が池田さん、右は相京さんで左が大作さん

に思います。池田さんの^{けれんみ}外連味のないお人柄が偲ばれます。

私は60歳も過ぎてから菌類に紛れ込んだものですから、あらゆる意味において常識外れでした。菌類の常識を教えて頂いた方は、池田さんに限りませんが、今考えると変形菌の合宿で相部屋になることが多かったのも幸いでした。初めの頃は、池田さんもそう取っ付きの良さそうな方でもありませんでしたので、恐る恐る質問をすると、^{まとも}真面に応じていただけたので一安心・安堵した覚えがあります。兎に角進歩を期待できない齢の私でしたが可愛がって頂いたと思います。白内障の手術で入院したときは、全く方角の違う所の病院に入っていたにも拘らず^{わざわざ}態勢見舞いに来て頂き大変恐縮しました。その

際頂いた顕微鏡の本は今も時々見えています。顕微鏡で思い出すのは、検体を薄く切る道具を何人か作っていただいたことがあります。指先の震える私はこれ無くしては子実層托実質などは見ることが叶わなかったと思います。

池田さんは腎臓が片方ないと言われるのに大変足腰の強い体力のある方でした。それが何で、どうしてもと思わざるを得ませんが日野市立病院に入院されました。梅雨時だったような気がしますがお見舞いに伺いました。入院されて暫し時が経っていましたが、身の^な塾しかたは病人とも年寄りとも思えないほど機敏でした。しかし同じ階にある公衆電話のところまで行くのが大変だと^{おっしや}仰る。退院の目途はあるらしい。どこが悪いのかははっきりしない。勝手に腎臓が悪いように想像して帰りました。その後退院され、狭山丘陵での変形菌観察会に参加されました。帰り道で皆さんに追い越されたことが、大変なショックであつたらしく、俺はもうだめだ。歩けない。と嘆かれること頻りでした。日野市立病院に通われていましたが、お住まいから直ぐ傍なのに行くのが大変だ、辛いと嘆かれました。その内、投薬の^{きい}所為で目が見えないと言われるようになりました。この点については、慶応病院から来ていた医師にその薬をやめれば目は良くなると言われ、飲むのを中止し、その代わり月に一度位慶応病院に通うことになったそうですが、これが想像を絶して大変だったようです。駅の階段の上り下りだけでも辛いことであったでしょうが、東京駅まで行ってそれからタクシーでというような話を人伝に^{ひとづて}伺いました。目がダメだから写真（機材）はもう全部息子に遣ったなど言われていましたが、目



左から近田ママ、同ご子息、菊池さん、池田さん、矢部さん

は多少良くなられていたのではないのでしょうか。最後にお目にかかったのは、高尾山で変形菌観察会のあった日の帰りでした。5・6人で伺ったものですから池田さんは話の聞き役にまわられてしまいました。しかし2・3ヵ月後にお亡くなりになるようにはとてもお見受けしませんでした。

思えば、池田さんは千葉菌類談話会にとってまた私にとって得難い先達でした。今は唯々ご冥福を祈るばかりです。(Nov.5,2003 記)